



GR TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup RACE REPORT

TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup 2025

| Rd.3 | SUGO

Qualifying

2025.6.14 SAT

#7 / 1st / 1'39.192

PRO

●路面コンディション：ウエット ●気温：20℃、路面温度：24℃



ドライ、ウエットともにライバル勢を凌駕し 予選では3戦連続のトップタイムで、ポールポジションを獲得

「TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup」の2025年シーズンは開幕から2戦を終えたただだが、プロフェッショナルシリーズでは僅差のトップ争いが繰り広げられ、今季も熾烈なバトルとなっている。そんなGR86/BRZ Cupの第3大会は宮城県にあるスポーツランドSUGOが舞台で、6月14日（土）に予選、15日（日）に13週の決勝レースが行なわれた。

CABANA RacingはGR86/BRZ Cupの前身となる86/BRZ Raceに、現在の体制である「T by Two CABANA Racing」として2018年から参戦。毎年、シリーズランキングの上位に食い込んでいるものの、チャンピオン争いに加われないシーズンが多く、今季はシリーズチャンピオン獲得という結果を出すために、堤選手の1台にリソースを集中させることとした。

4月に行なわれた開幕戦のオートポリスから、バージョンアップしたブリヂストン「POTENZA RE-10D」が導入され、堤選手は2戦連続で高いパフォーマンスを発揮。とくに、開幕戦ではポールポジション、第2戦も停止したマシンの影響でノータイムとなったがトップタイムをマークしていて、予選での速さはライバル勢を凌駕している。

今回のスポーツランドSUGO戦は、2025 SRO Japan CupやYaris Cup 東北シリーズが併催されるため、いつものレースウィークと比較するとテスト走行の本数が少ない。そのため、限られたスポーツ走行のなかで、適格なセットアップを見つけ出すチーム力が勝敗の鍵となった。

チームは12日（木）からサーキットに入り、日差しが強く立っているだけで汗をかくような気温のなか、3本の走行枠を活用して週末に向けて準備を進めた。13日（金）も前日同様に気温が高く、ドライコンディションでの走行となる。14時30

分からプロフェッショナルシリーズの専有走行が始まると、各マシンが一斉にコースイン。堤選手は計測1回目の時点で、トップタイムとなる1分34秒494を記録。通常であれば1回の計測で走行を終える選手が多いが、走行機会が限られていたこともあり、複数台が2度目の予選シミュレーションを実施。堤選手もピットに戻ると1度マシンを降り、タイミングモニターで周りの状況を確認する。その後ライバル勢がトップタイムを更新していったが、タイヤを変えて再びコースインすると、1分34秒177のトップタイムをマークして専有走行を終えた。

14日（土）は前日まで曇りの天気予報だったが、朝から冷たい雨が降り始め、想定外のウエットコンディションでの予選となる。スケジュール通り14時10分から20分間でプロフェッショナルシリーズの予選が始まり、コースオープンと同時に数台を残してほぼ全車が一斉に動き出す。ドライでの予選であれば1回のアタックで終わってしまうが、今回のようなウエットコンディションでの予選は、周回し続けて路面状況が良くなったタイミングで1周をまとめることが重要となる。堤選手は計測3周目に1分42秒408を記録し、暫定トップに浮上。4周目以降、堤選手だけでなくライバル勢も続々と自己ベストタイムを更新し、激しく順位が入れ替わる。計測7周目に堤選手はベストタイムとなる1分39秒192をマークすると、ピットに戻りライバルの動向を見守る。予選の終盤になると多くの選手が自己ベストタイムを更新していったが、堤選手のトップタイムが更新されることはなく、今シーズン2度目のポールポジションを獲得した。



Final

2025.6.15 SUN

#7 / 1st / 21'00.990

PRO

●路面コンディション：ドライ ●気温：27℃ 路面温度：52℃



今シーズン2度目のポールポジションからスタートした堤は オープニングラップの激闘を制し、2023年8月以来の優勝を飾る

予選日となった14日(土)は、天気予報より早めに雨が降り出し生憎のウェットコンディションでの走行となったが、決勝レース日の15日(日)は午前中からサーキットに日差しが照り付けた。

午前中には併催カテゴリーの決勝レースが実施されたが、すでに路面はドライコンディションとなり、午後に実施されるGR86/BRZ Cupも同様の状況での開催となった。13周で競われるプロフェッショナルシリーズの決勝レースは、予定通りの13時40分からスタート進行が始まる。28台のマシンがスターティンググリッドに並ぶと、多くの観客や関係者がホームストレートを埋めた。

ポールポジションに並んだ堤選手は、フォーメーションラップでタイヤやブレーキに熱を入れると絶妙のスタートで、1コーナーを制した。しかし、セクター2のハイポイントコーナーでラインがややワイドになり、バックストレートで2番手からスタートした#121 蒲生尚弥選手に並び掛けられる。2台は馬の背コーナーでサイドバイサイドになるが、続くSPコーナーでは堤選手がトップを死守して1周目を終えた。2周目に入ると堤選手はファステストラップを記録して蒲生選手と

の差を0.5秒に拡げる。翌周も0.3秒ほど速いラップタイムをマークし、さらに後続とのギャップを築く。レースが折り返しとなる7周目には、堤選手と蒲生選手の差が1.1秒まで拡がり、あとは後続との間隔をキープしながらのレースとなる。

決勝レース日は気温が27℃で路面温度が52℃まで上昇し、マシンにもタイヤにも厳しいコンディションとなった。中団以降ではタイヤに偏摩耗が発生しラップタイムを落としていくマシンがいるなか、堤選手は各部をマネージメントしながら周回を重ねた。終盤になると2番手を走行する蒲生選手がラップタイムを上げてギャップを詰めてきたが、最後はそれに合わせてペースアップ。13周目にトップでチェッカーを受け、ポールトゥウィンを達成した。昨シーズンは表彰台に登ったものの勝利がなかったため、2023年8月に開催された十勝スピードウェイ大会以来の優勝となった。

今季は開幕戦から2位、3位、優勝と3戦連続して表彰台に登り、この結果によりシリーズランキングはトップに立った。この調子を維持し、中盤戦以降もライバル勢を凌駕する成績を収められるよう努力を続けていきたい。



Team Staff & Driver Comment

| **Team Owner** | Hiroshi Ando |

安藤 宏 チームオーナー



レースウィークは走行機会が少なかったため、持ち込みのセットアップが重要だと考えていました。また路面が新舗装となったことで、その特性といかに合わせるかが勝敗をわけたと感じています。堤選手の適応力も含めて、チームの歯車がすべてがかみ合い良い結果ができました。そして、開幕戦から POTENZA RE-10D のパフォーマンスを最大限に引き出せていて、ドライとウエットコンディションともに今回も心強い味方となりました。予選は今週末で初のウエット路面となりました

が、調子を崩すことなくセットアップも合わせられました。決勝レースはオープニングラップで攻防がありましたが、落ち着いて乗り切るとあとはギャップをコントロールしながらの戦いで安心、安定の展開でした。前戦のもてぎではポールポジションだったら勝てる速さがあったと感じていて、翌戦の菅生で早くも勝利を挙げたチームとドライバーを誇らしく思います。次戦以降も慢心せず、良いレースができるように準備していきます。

| **Driver** | Yuui Tsutsumi | #7 CABANA BS GR86 |

堤 優威 選手



スポーツランド SUGO の舗装が全面的に改修され、12日(木)は走らせ方や内圧の上がり幅などのチェックを行ないました。中でもトップレベルのタイムで走っていたので、週末に向けて良い流れが作れたと思っています。専有走行では2アタックして、2本目には路面状況の改善もあり非公式ながらコースレコードを大幅に上回るタイムをマークできました。予選は2日間から一転して

ウエットコンディションとなりましたが、マシンの状況は良かったのでギャンブル的なセットアップはせずに走りました。ライン取りを考えながら周回を重ね、狙い通りのトップタイムでした。決勝レースは1周目にミスがあって追いつかれましたが守り切れ、あとはタイヤをマネージメントしながら走りました。去年は勝てなかったので、久しぶりの勝利を届けられて良かったです。

| **Chief Engineer** | Noboru Yamazaki |

山崎 登 チーフエンジニア



前戦のもてぎでは予選がノータイムとなりましたが、ポテンシャルはあったので、似たようなセットアップで持ち込みました。今回は走行本数が少なかったため、車両のセットアップよりも適正なタイヤの内圧を探ることに注力しました。走り初めとなった12日(木)は新舗装の特徴が掴みづらいところがありましたが、鍵と考えていたタイヤの内圧は良さそうなおところが見つかりました。ドラ

イコンディションの専有走行ではトップタイムをマークし、方向性が間違っていなかったと思います。予選はウエットコンディションとなりましたが、前日までのパフォーマンスが発揮できました。決勝レースは後半までラップタイムが落ちず、マネージメントもできていて良い内容でした。ポイントリーダーで中盤戦を迎えますが、気を引き締めて連勝を狙っていきます。

